

若い世代の関心と期待

山極壽一（総合地球環境学研究所）

私はこれまで40年以上にわたり日本（鹿児島県屋久島）とアフリカ（コンゴ民主共和国カフジ・ビエガ国立公園）で人と自然の共生を目指す活動をしてきました（写真）。その経験を生かして、今は文化と自然の複合的関係を解き明かし、環境問題を解決に導く研究を実施しています。ウッドデッキでは、これまでに世界の若い世代と付き合いしてきた経験を基にして、若い世代の関心と期待がどこにあるのかについて解き明かし、その実現に向けて協力したいと思っています。

今回の参議院選挙における10～30代の投票率はいずれも30～40%台で、40代以上の50%を超える投票率を下回りました。以前から若者は政治に関心がないと言われてきましたが、投票率にもそれが顕著に示されているようです。ではいったいなぜ政治に関心が向かないのか。

私はこのところ地方を回って若い世代と話をすることが多く、その度に彼らの関心がどこにあるかを探ってきました。今、地方で活躍している若い世代は一様に「政治に期待していない」と言います。では何に期待しているかという「経済」です。自分たちがやりたいことは、自分たちでお金を集めて実行に移す。政治家や行政はその活動を邪魔してほしくない。できることなら後押ししてほしいが、法律や制度はすぐに変えられないから期待していない、と言うのです。事実、彼らは資金調達能力が高く、数年で数億から数十億の資金を集め、新しい事業や産業を立ち上げたり、学校を作ったりしています。多くは一度グローバル企業で働いた経験のある若者たちで、そこで得たネットワークや交渉技術を利用して繋がりが合い、小さなベンチャーどうしが手を組んで起業しています。

これは大都市の時代が終わり、地域の時代の始まりを予兆しているかもしれない、と私は思うようになりました。これまで日本は人口縮小時代に入り、労働力は減って経済は低下し、国力が落ちることを懸念する意見が主流でした。しかし、大都市に人口が集中したせいで地方の暮らしに大きな弊害が起こっているのではないのでしょうか。大都市に大量のエネルギーと食料を供給するために、地域はその負担を一身に背負ってきました。エネルギーも水も中央の供給システムに頼り、食料も規格と量を市場に決められて自由に生産することができなくなりました。その結果、食料の大量生産・大量消費・大量廃棄が起こり、その流れに乗れない人々は兼業に走らざるを得なくなりました。今後、政府は過疎に陥った地域は人々を中都市に移住させ、サービスの量と質を落とさない方針を固めています。その一環として、毎年500校近い小中高等学校が廃校になり、統合・合併が進んでいます。しかし、本当に過疎は人間が暮らせない条件なのではないのでしょうか。考えてみれば、エネルギーの源である太陽光も水もただの材料です。地域で小規模に発電や供給システムを作れば自立は可能です。中央との分業体制が当たり前になってしまったから、災害が起これば中央の助けを待たねばならなくなるのです。

人間以外のサルや類人猿などの霊長類の脳のサイズは集団規模との相関関係があり、大

きな集団で暮らす霊長類は脳が大きいことがわかっています。これを人間に当てはめると現代人の脳サイズに匹敵するのは 150 人になります。これは、社会関係資本と呼ばれていて、信頼できる仲間の数の上限になります。現代人の脳は言葉が登場する前に現代の大きさになったのですから、社会関係資本は言葉ではなく、ともに活動する体験を通して身体を共鳴させることによって作られると考えてよいでしょう。大都会であっても人々の交流する時間の 60%はたった 15 人の仲間との間で費やされているという報告があります。SNS を通じて数千人、数万人の人々と交流していると思っている現代の暮らしは、実はバーチャルな関係であって、信頼する仲間を作ることはできていないのです。

であれば、少々不便でも、顔の見える関係を築ける地方の小規模な暮らしのほうが、私たちの脳の認知機能に合っているということが出来ます。振り返ってみれば、江戸時代まで日本は 280 近い藩に分かれて独自の産業や教育を実施していました。明治 4 年に廃藩置県体制が確立され、全国 47 都道府県に統合されて、どこでも同じ教科書で同じ言語で学ぶことが奨励されました。それは国民国家を作ることには大きく貢献しましたが、地方から東京を始めとする大都市に若い世代の移動を促進しました。その結果、地域の言葉は忘れられ、地域の産業は都市のシステムに吸い上げられて分業体制が固められました。しかし、地方を歩くと、未だに人々のアイデンティティは藩時代の小さなまとまりにあります。お祭りがその単位で行われていることからそれがわかると思います。人々の生きる力は地域の文化にあるのです。それを象徴しているのは学校ですから、私は学校を閉鎖したりお祭りを取りやめたりしないでほしいと思うようになりました。

U ターンばかりでなく、J ターンや I ターン、それに地域協力隊の若い世代が協力して、地域に伝統や文化を生かしながら新しい事業を立ち上げる試みが、全国各地で盛んになっています。ウッドデッキはそういった動きに賛同し、経済も政治も行き詰まりつつある日本に新しい風を吹かせたいと思っています。これからも私たちの活動に注目してください。



屋久島あこんき塾の集まり



ポポフ 20 周年記念写真